

長崎の林業

小曾根星堂書



苗木を運搬するドローン



植栽技術向上研修会講義



ドローンのデモンストレーション



長崎県農林技術開発センターから
植栽技術・特性母樹の講義

スマート林業、主伐・再造林の推進に向けた「植栽技術向上研修会」(対馬)

3

目次

● 林業普及指導員特集号【令和4年度 林業普及指導員 活動報告】

(長崎指導区)	林業経営体支援と人材の育成・確保による地域経済活性化に向けた取組	2~3
(長崎指導区 島原分区)	人材を活かした普及活動	4~5
(県北指導区)	若者から『選ばれる』県北の林業に向けて	6~7
(五島指導区)	五島地域の森林整備推進と人材育成・確保に向けた普及員の取組	8~9
(対馬指導区)	・*★ それぞれのカラーが輝く林業経営体を目指して *★	10~11
	令和4年度林業普及指導員活動報告について	12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税により発行して
います。



2023
No.810

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



普及員特集

林業経営体支援と人材の育成・確保による 地域経済活性化に向けた取組（長崎指導区）

これまでの取組

長崎指導区は、長崎半島、西彼杵半島及び県中央部の4市5町を普及活動地域としており、土地の生産力が高い多良・東彼地域やヒノキ林が多い西彼地域があります。

この森林資源を活用した持続的経営のために、森林経営計画の作成支援と確実な森林整備の実行指導をはじめ、更なる低コスト化に向けた路網整備や効率的生産システムの確立、木材の安定した供給体制等を促進しています。

また、特用林産物や森林資源を有効活用した各地域の活動を通じて、地域経済活性化も推進しています。

このことから、地域の取組を踏まえ、林業の成長産業化による森林の多面的機能の発揮と持続可能な森林経営を実現していくことを基本的課題とする「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」により「構想の策定と実現への支援」「林業経営体への支援」「人材の育成・確保」「効率的な作業システムと路網による低コスト化」に取り組みました。

構想の策定と実現への支援

「森林経営管理制度」の実行支援

当指導区では、市町が経営管理権を取得したうえで、令和4年度は5市町において約35haの切捨間伐等の森林整備が実行されています。

実行支援に当たっては、普及員が各市町担当者や地域林政アドバイザーと連携し、対象森林の絞込みのための情報提供や森林所有者を対象とした制度説明会への同席支援、経営管理権集積計画の作成指導、市町村森林経営管理事業の発注に向けた調査支援（写真1）、積算・実行管理業務指導等、必要に応じた支援を行いました。

また、普及員が九州及び全国ブロックシンポジウムでこれらの取組事例と支援内容

を発表しました。

各市町が実施する意向調査により、地域の森林に対する再認識、関心が高まることから、今後も計画的な意向調査実施を支援し、その結果を反映した経営管理権集積計画の作成と森林整備を実行する市町の取組を支援します。



写真1 森林経営管理事業の調査支援

林業経営体への支援

意欲と能力のある林業経営体の育成支援

持続可能な森林経営を実現するためには、林業経営体の労働生産性の向上による事業量の拡大と素材生産量の増加による林業専門作業員の所得向上が求められます。

このため、具体的な取組として策定した産地計画をもとに、効率的かつ安定的な林業経営の実現を目指すとともに森林経営の継続性の確保を目指す意欲と能力のある林業経営体等に対し、事業スケジュールの管理や補助事業実施指導により年度計画の作成と約25,000m³の素材生産実行を支援しました（写真2）。



写真2 産地計画の作成、実行支援

人材の育成・確保

人材の確保の支援

森林資源の循環利用による林業の成長産業化が期待されていますが、林業専門作業員の高齢化、後継者不足が現状の課題となっています。このため、森林整備を推進するうえで、新規就業者等担い手の確保が必要であることから、各経営体に参加するガイダンス等での説明支援をはじめ、求人情報提供に向けた個別指導等を行いました。

また、新規就業者の指導者や現場管理責任者となるフォレストリーダー19名の育成に向けた研修講師を務めました(写真3)。



写真3 フォレストリーダー研修講師

効率的な作業システムと路網による低コスト化

低コスト造林・育林技術の普及

人工林が本格的な利用期を迎え、主伐後の適切な再造林による森林資源の循環利用が必要となっています。このため、路網整備や主伐と一体的に行う再造林及び下刈り経費の個人負担が重荷となることから低コスト造林・育林技術の支援として、県外経営体の地拵え経費削減と下刈り省力化を図る現地実証地を県内経営体とともに視察(写真4)し、新たな手法の情報収集と低コスト化技術の普及を実施しました。



写真4 下刈り省力化実証現地視察

地域経済の活性化推進

諫早市高来地区では、地域の森林資源を有効に活かそうと地元の4つの山林会が「木の駅たかきプロジェクト」に取り組みされており、プロジェクト開始当初より連絡調整等の支援を続けています(写真5)。



写真5 木の駅実行委員会業務支援

また、ハラン生産に取り組まれている東彼地区等では、生産・出荷状況の把握、九州地区林研グループ発表会の準備協力、発表支援や農林技術開発センターの技術協力による新たな栽培方法の普及と情報提供等を実施しました(写真6)。



写真6 栽培方法(一節挿し)の技術普及

今後の取組

林業経営体の持続可能な経営が人材の育成と確保に不可欠であり、そのためには効率的な作業システムの定着を普及し、新たな技術を常に提供、指導する必要があります。そのことで地域経済の更なる活性化も期待できます。

今後も指導区内の林業経営体や市町担当者と連携して森林・林業の状況を十分に捉えた普及活動に取り組みます。

(県央振興局 黒岩康博 辻恵子 黒川和輝)

人材を活かした普及活動（長崎指導区 島原分区）

はじめに

長崎指導区島原分区は、島原市、雲仙市、南島原市の3市を普及活動地域としています。管内の民有林の人工林面積は7,716haあり、雲仙森林組合などの林業事業者が中心となり、森林整備を実施しています。

森林整備を進めていくために、島原振興局が林業事業者や市、各種団体と協力して行った令和4年度の取組についてご紹介します。

I 林業経営体の育成

① 雲仙森林組合

雲仙森林組合では令和元年度に産地計画を策定し、複数年分の事業箇所の確保により、計画的な森林整備の実行を目指してきました。しかし、林業専門作業員の減少のため、計画どおりの事業実施が難しいという課題があります。

雲仙森林組合では、現在5名の作業員が活躍していますが、すべてキャリア15年以上のベテランばかりです。振興局では今年度、作業員の方を対象に「従業員満足度調査」を行いました。その結果、現在の仕事に対する満足度が高い方が大半を占めました。一方、ベテランの技術を継承していくためには、新しく就業した作業員をどう定着させるかが課題となります。雲仙森林組合では、今年度から作業員に関する処遇改善を実施したり、県の補助事業「魅力の林業づくり隊育成事業」を活用し、新規就業者を呼び込むための独自のPR動画の制作を行いました。このような取組が、ベテランだけでなく新しい作業員の定着につながり、さらには、計画的な事業実施に結びついていくことを期待しています。

② 林業協同企業体 (Forest-Joint-Venture)

雲仙森林組合では、作業員の不足を補う

ため、令和元年度から素材生産業者や建設業など外部の協力事業体に搬出間伐事業を委託しています。令和3年度までは、比較的短い工期で委託事業を発注していましたが、協力事業者の本業が忙しく受注がかわなかったり、受注いただいても急ピッチで作業をしなければならないケースが見られました。そこで今年度は、森林組合が長期受託契約を結んだ箇所、工期を長く設定することを振興局から提案し、実施に結びつけています。こうすることで、協力事業者は、本業が空いた時期に余裕をもって事業に取り組むことが可能となりました。



Forest-Joint-Venture打ち合わせ

II 市町村への支援

令和元年度から、適切に経営や管理が行われていない森林について、市町村が主体となり森林整備につなげる「森林経営管理制度」がスタートしました。令和3年度まで、振興局と各市で、対象地区の選定から森林整備の実施に至るまでのプロセスについて制度説明や、進め方の検討を何度も行ってきました。その結果、今年度は各市がほぼ自立して、森林所有者に対する意向調査や、森林整備事業の発注などの取組を行っています。今後は、市の担当の方が異動しても、この取組が続けていけるよう、振興局からは後方支援を継続していきます。

Ⅲ 林業関係団体への支援

管内には、森林所有者が組織する「林業振興会」が、雲仙市と南島原市にそれぞれ1つずつあります。それぞれの林業振興会では独自に研修会などを開催しています。今年度は、南島原市林業振興会口之津支部で研修会が実施され、普及指導員が講師となり、定性間伐の選木の実習と森林組合による伐採のデモンストレーションを行いました。

また、雲仙市吾妻町には生産森林組合が4つあり、毎年度、会計事務などの組合運営に関する研修会を行っています。

このような古くから存在する林業関係団体が活動を存続していけるよう、関係市や森林組合と連携しながら、今後も支援を継続していきたいと思っております。



南島原市林業振興会口之津支部研修会



生産森林組合研修会

Ⅳ 未来を担う担い手の育成

南島原市にある森林ボランティア団体「南島原市みんなの森守協議会」では、南島

原市有林で、タケノコ掘りや栗拾いなどの体験活動を、地元の小学生親子を対象に行っています。活動の一環として、参加した子どもたちを対象に、普及指導員が講師となり、森林に関するクイズやネイチャーゲームを行い、楽しみながら森林・林業について学んでもらっています。

また、雲仙市立千々石中学校では、次世代の農林水産業の担い手の確保のための総合学習を行っています。その一環として、普及指導員が講師となり、1年生の生徒を対象に、間伐の効果や森林の公益的機能について授業を行いました。

このような活動や授業に参加した子どもたちが、将来、長崎県の林業を支える一員となることを期待しています。



南島原市みんなの森守協議会活動

最後に

このように、今まさに林業に関わっている林業事業者や行政に対してだけでなく、古くから林業に携わってきた関係団体、そして、未来の林業の担い手候補にまで、ニーズに合わせて幅広く活動を行っています。

島原振興局管内では林業普及指導員は1名ですが、林業班全員がそれぞれの得意分野を活かし班全体で普及活動に取り組んでいます。また、地元の方々の協力なしには、これらの活動は行うことができません。今後も活動を通じて、森林整備の推進につなげていきたいと考えています。

(島原振興局 平野文)

普及員特集

若者から『選ばれる』県北の林業に向けて（県北指導区）

林業が若者から『選ばれる』魅力ある産業となるため、林業の成長産業化の実現を目指して、普及指導員3名で県北指導区の普及指導活動を行いました。



“Mr.コンプリード”
中山 誠

“チェーンソーマン”
西本 吉孝

“働くナメケモノ”
多久 一輝

I 林業の成長産業化に向けた林業経営体の育成

◎意欲と能力のある林業経営体の育成支援 ＜課題＞

林業の成長産業化のためには、森林整備の担い手となる林業経営体の育成・強化が必要不可欠であり、各経営体が持続可能な森林経営を実現するための取組を定めた「産地計画」の実行を支援する必要があります。

＜取組・成果＞

県北指導区では、長崎北部森林組合、平戸市森林組合、(株)鶴田林業の3経営体が策定した産地計画の実行支援として、年間事業計画を策定し、毎月の各経営体の現場進捗を管理し、目標値である間伐面積、素材生産量、生産性、現場作業員数の達成に向けて支援指導を行いました。

また継続的な事業量の確保のために、森林経営計画の作成支援や市町と連携した市町村

森林整備計画の構想などを行いました。

各経営体の産地計画策定から3年を迎え、これまでの計画実行状況から各経営体毎に大小様々な課題が浮き彫りになってきたところで

す。今後も各経営体と意見交換を深めながら、実行性のある計画へと再検討を行い、目標達成に向けた支援・指導を行っていきます。



II 人材の育成・確保と安全性の高い林業労働環境の推進

◎人材確保の支援

＜課題＞

素材生産量を拡大するためには、林業の担い手（新規就業者）を確保し、定着させることが必要ですが、離職者や高齢化に伴う退職者の増加による人材不足が課題となっています。

＜取組・成果＞

若者から選ばれる働きやすい職場環境づくりに向けて必要となる経費等を補助する事業



の活用を支援し、その事業の中で長崎北部森林組合と平戸市森林組合では外部の経営コンサルタントと委託契約を締結し、組織の10年後を見据えた将来ビジョンの構築に取り組んでいます。

このほか担い手の確保に当たり、ハローワーク等での人材募集案内やガイダンスへの参加支援のほか、林業就業へのきっかけづくりとして管内の高校（北松農業高等学校、鹿町工業高等学校、平戸高等学校）を対象とした林業教育や現場での間伐体験やドローン体験を実施しました。



◎労働環境の改善と安全性の向上対策支援 ＜課題＞

林業の現場では、まだまだ他産業と比較して労働災害の発生が多い状況が続いており、若者から選ばれる、働きやすく、安全な林業労働環境づくりのためには、労働環境の安全性の向上対策が強く求められています。

これには林業専門作業員への災害防止に関する正しい知識と技術の普及指導および経営者が行う労働環境改善への支援が必要となっています。

＜取組・成果＞

各作業現場への安全巡回指導や各経営体の作業班長・班員や請負作業班への安全指導研修により安全作業の徹底を指導しました。

また、安全性の向上のためには、実際の実務や基本動作を正しく指導することができる「指導者」を育成していく必要があります、その先導者としてまずは普及指導員が「技術指導できる普及員」として、安全技術指導を行いました。



Ⅲ 生産性の高い林業の推進

＜課題＞

林業専門作業員の高齢化や人材不足が年々進行しており、森林施業の効率化・省力化が不可欠となっています。

生産性や安全性の向上を目的として、ICT技術等を活用したスマート林業の普及を推進する必要があります。

＜取組・成果＞

平戸市森林組合の「スマート林業の導入支援事業」の活用を支援し、生産管理の効率化・労働災害撲滅を図ることを目的とした、携帯電波圏外下においても事務所職員と現場作業員間で情報発信・共有化が可能となる林内通信システム（Soko-co Forest）が導入されました。

現地での実践運用を通じ、適応性を確認していくとともに、通信システムの効率的な運用方針について、現場作業員と事務所職員およびシステム開発者と意見交換しながら検討・改善を進め、よりよき実行体制の構築に向けて引き続き支援を行っていきます。



最後に

今後も県北地域の林業の活性化のため、普及指導に邁進していきます。要望・相談事等ありましたら、私たち普及員にご相談ください。

（県北振興局 中山誠 西本吉孝 多久一輝）

普及員特集

五島地域の森林整備推進と人材育成・確保に向けた普及員の取組
(五島指導区)

現状とこれまでの取組

五島指導区は五島市と新上五島町からなり、民有林面積40,734haのうち人工林面積が18,058haとなっています。この森林資源を活用して搬出間伐を平成30年度：119ha、令和元年度：140ha、令和2年度：159ha、令和3年度：160haと拡大させ林業活動を推進しています。

五島管内の中核的な事業主体である五島森林組合は、意欲と能力のある林業経営体として高性能林業機械を積極的に導入し作業効率化を図るとともに、職員の福利厚生を充実させ、人材の確保・育成に取り組んでいます。また、木材加工施設を活用して島内の公共施設への五島産材の供給や畜産農家へおが粉を供給し地域資源の循環利用に貢献しています。

また、五島地域は、長崎県が全国1位の生産量を誇るツバキ油の8割以上を生産しており、普及員と農林技術開発センターが連携して特用林産物による地域振興にも力を入れています。このような地域の特色を踏まえ、今年度は下記の5項目を重点的に取り組む推進事項として普及指導に取り組みました。

1) 意欲と能力のある林業経営体の育成支援

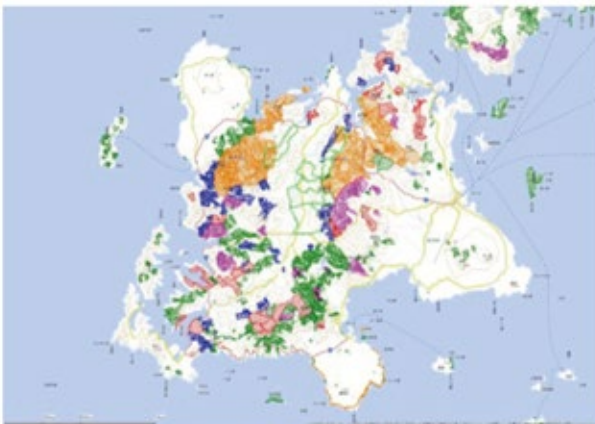


図1：管内組織造林配置図

五島森林組合が作成した産地計画の進捗管理を支援しています。課題として年間を通じた進捗では個々の現場毎の小さな遅れが積み重なり、全体として思うように森林整備が捗

らない、また、個々の工程の遅れに伴って、機械稼働の予定や人員配置がずれてきて非効率となり搬出間伐面積が伸び悩んでいることがわかりました。

そこで、年間を通して、人員や機械の効率的な稼働ができるよう発注者間による次年度事業調整会議を開催し、今後、5年間の施業箇所を団地化するよう支援しました。

2) 人材の育成（施業プランナーの）支援

実効性のある産地計画にするには、PDCAサイクルを回して、より実態に沿った形にする必要があります。そこで、昨年度、取り組んだ作業指示書作成支援を継続しつつ、施業プランナーの労力軽減と日報管理による作業現場のリアルタイムの進捗管理ができるよう、新たな日報管理表の検討を行っています。

まだ完全ではありませんが、施業プランナーや作業員の意向に沿って、わかりやすい形で進捗管理できるような仕組みをつくる予定です。

3) 人材の確保（新規就業者）の支援

新上五島町では、森林組合・県森林組合連合会と協力して地元高校の1年生に林業説明会を行っています（写真1）。この取組の成果として、就業に関する問い合わせが学校から森林組合にあります。

このような成果を受け、五島市でも同様の取組ができるよう地元高校の進路指導担当者と検討を進めています。また、五島市は移住



写真1：地元高校での林業説明会

者が多いことから、市の地域振興部に林業のPRを行っています。

4) 林業労働環境の改善と安全性の向上対策推進

五島地域では事業者の新規参入を目指しています。そのため、五島市では林業協会、林業労働力確保支援センター等と連携して、基本的な伐木方法・かかり木処理等を学ぶ「林業就業支援講習会」を開催しています。また、新上五島町でも島の森再生協議会の事業で同様の取組を行っています。

今年度は計7社13名の参加がありました。普及員もこの取組を支援し、室内講習・現地指導を行っています（写真2）。



写真2：伐倒作業講習会

このような継続的な取組が実を結び、今年度は五島市で、建設業者が森林整備センターの保育間伐約10haを実施しました。

普及員はこの現場にも足を運び、防護衣着用の義務化やかかり木処理の危険性について指導し、安全作業ができていないか確認を行いました。今後も森林整備事業に従事してもらうよう指導を行います。

5) 地域特性に応じた特用林産物の生産技術支援

五島地域の代表的な特用林産物であるツバキ油の安定的な生産・増産を目指して普及指導に取り組んでいます。

主な取組として、ツバキ実生産者、搾油業者、苗木生産グループ、市町等で構成された五島列島ヤブツバキ振興協議会の活動を支援しています。

その中で、これまで活用が進んでいなかったツバキ実が多く生えるツバキの優良母樹を

有効活用するため、樹木園の再整備や、採種園の造成を計画し、優良母樹の挿し穂をツバキ苗木生産グループへ提供して、増殖を行いツバキの苗木を配布する取組を支援しています。

また、農林技術開発センターと協力して、剪定講習会等を開催し生産技術の普及にも努めています（写真3）。



写真3：ツバキ剪定講習会

今後の取組

今年度は上五島高校からの就業希望の問い合わせ、県伐木チャンピオンシップ初参加での入賞、新規参入事業者の保育間伐の実施等、これまでの継続的な普及の取組が実を結んだ年でした。

今後も五島地域の森林整備推進・地域活性化に向けて、継続的かつ実勢に沿った地域振興のための普及指導を行います。

特に、五島地域での森林整備推進・木材生産量の増加を図るには、五島森林組合の効率的な進捗管理が不可欠です。しかし、現場作業での機械化は一定段階進んでいるため、今後は、機械をいかに効率的に稼働させ続けるか、そのためにいかにしてオペレータ人材を確保するかといった労務管理の最適配置が重要になってくると考えており、その課題解決に向けた取組を強化したいと思っています。

今後も、県普及指導員として、事業者職員や地元関係者、市町と協力し、ICT技術情報等も活用しながら、快適で儲かる林業・快適で暮らしやすい五島の実現を目指して普及活動に取り組めます。

（五島振興局 柳本和哉 室原正洋）

普及員特集

・*★ それぞれのカラーが輝く林業経営体を目指して ★*・ (対馬指導区)

はじめに

長崎県における認定林業事業体は39者で、そのうち対馬は14者、林業に従事している専門作業員数は県の36%を占めています。また、対馬の木材の生産量も年々増加し、5年前の約2倍、県の44%を占め、一大林業地へと成長しています。

対馬指導区における背景と要因、林業成長産業化に向けた普及員の取組について報告します。

図1：森林整備・木材生産量(スギ・ヒノキ)の推移

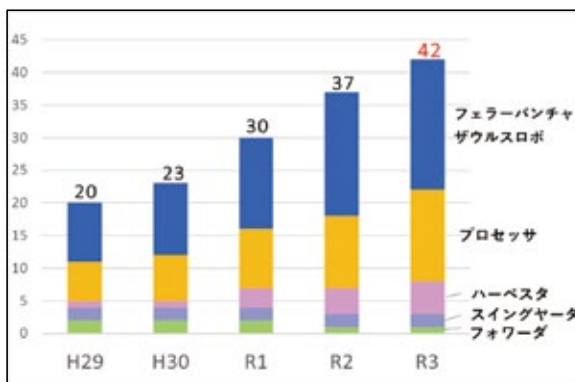


1. 林業機械の充実

生産性の向上のための大きな要因である高性能林業機械の導入により、各林業事業体(会社・個人経営)の作業システムが概ね整いつつあることが挙げられます。

対馬の高性能林業機械の台数は、平成29年度は20台、令和3年度には42台と、所有台数も約2倍に増加しています。

図2：高性能林業機械導入の推移

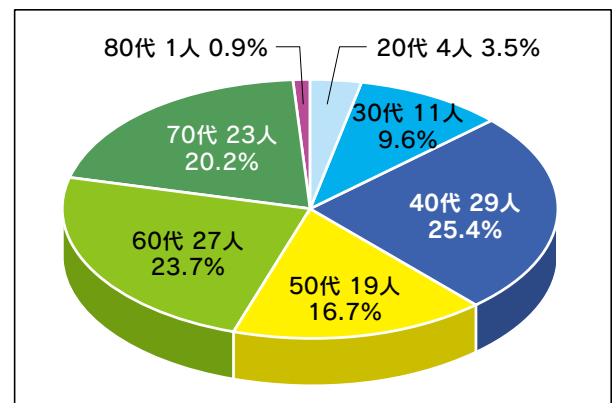


2. 林業の担い手

対馬における大きな課題である人口減少については、令和4年12月末現在、約2万8千人で、減少の一途をたどり、この10年で約2割人口が減少しています。高齢化と若者層の島離れにより、産業を支える労働人口の減少が深刻化しています。

林業専門作業員は114人(R5.1月現在)で、平均年齢は56歳と高齢化が進んでいます。しかし、図3に示しているように、40代以下が約4割で、家族経営の場合も二代目が帰島して親子で活躍されている経営体も少なくありません。林業分野における若者層や、U・Iターンで林業を志す人材も徐々に増え、経営体の垣根を超えた若者同士の横のつながりも強くなっているように感じます。

図3：林業専門作業員年代別割合



一方で、拡大造林や育林の時代を支えてきた50代以上の方々が、今もなお活躍されており、最高齢89歳の方の主伐・再造林の事業量が対馬ナンバーワンです！現在の対馬の木材生産量の増加は、長年にわたり林業に従事して来られた先人達が今日につないでくれた努

力のおかげです。

幅広い年代の活躍により、充実した森林資源を有効に利用する時代を迎えるとともに、再び対馬の未来への森林づくりのサイクルがスタートしつつあります。



3. 普及員の取組

①経営体の育成

対馬における林業経営体は、大規模経営から家族経営、自伐林家まで様々で、経営方針も異なります。その中で私たち普及員は、事業体の強みを伸ばし、弱みを改善するために事業体に合わせた支援を行うよう取り組んできました。

具体的には、産地計画、労働力確保の改善計画、森林経営計画等の各種林業経営体が立てている中期的な計画の策定を通して、経営方針や強み・改善点が見える化しています。また、その計画の進捗管理や単年度実績について現場巡回や聞き取りを行い、計画の実行、課題の改善に向けて支援しています。普及員も経営体ごとの特色を理解することで、それぞれに合わせた情報をダイレクトに伝えるよう心掛けています。

今年度は、雇用拡充事業計画の補助支援、担い手確保支援、造林事業の現場管理、安全指導等に加え、経営体ごとに改善すべき課題（森林作業道作設技術の向上、労働安全対策、経営の将来ビジョン作成に向けた講習等）に



特化した個別研修会の開催を支援しました。

②担い手の確保

担い手の確保については喫緊の課題であり、経営体の雇用状況に応じて重点的に取り組んでいるところです。

市や県、関係機関と連携した就業・移住希望者向けのガイダンス等のイベントも多く開催されており、その都度担い手の確保を希望する経営体を支援しています。



また、将来、林業を志す人材として高校生や中学生への森林・林業教育にも取り組んでいます。今年度は初めて上対馬高等学校1年生に対し、ふるさと教育の一環で、講義と高性能林業機械の現地実習を行い、林業への理解と関心を高めることができました。



最後に

今日の対馬の林業は、それぞれの林業経営体が独自のカラーで地域に貢献しながら発展してきました。

その長い歴史の中では、私たちの関わりもほんの一部に過ぎませんが、これからも対馬の林業経営体ごとの魅力を活かしたそれぞれのカラーで輝けるよう、林業普及指導員としてそれぞれのカラーで林業成長産業化に向けて引き続き取り組んでまいります。



(対馬振興局 本山 広美)

普及員特集

令和4年度林業普及指導員活動報告について

若者から選ばれる魅力ある林業の実現に向けて、今年度の林業普及指導活動は、担い手の確保・定着に向けた支援、意欲と能力のある林業経営体の育成支援、低コスト造林・育林技術の普及に向けた取組、林業労働安全の推進など各地域の特性に合わせて1年間活動を行いました。

9月に開催された令和4年度林業普及指導員九州ブロックシンポジウムでは、県央振興局の辻普及員が、『自治体間連携による森林整備への取組～森林経営管理制度に関する普及活動～』と題して、市町の担当者や地域林政アドバイザーと連携し、それぞれの持つ強みを活かして森林経営管理制度を推進できたことを発表し、他地域への波及が期待されることなどを評価していただき、最優秀賞を受賞することができました。

昨年度から取り組んできた林業事業体及び林業専門作業員育成プログラム策定委員会では、委員のみなさまからご指導を賜り、10年後の林業界を見据えて、組織経営を担える人材、安全技術の指導ができる地域の

キーマン、安全を意識し現場から経営に参画できる林業界のリーダー、いきいきと働ける職場づくりができる経営者を育成しようと、体系的な人材育成プログラムを作成し、実行することとしました。

これからも現場の声を聴きながら構想の実現に向けて活動してまいります。

(林政課 普及指導班)



2022ながさき伐木チャンピオンシップ

長崎の林業 3月号 第810号
 編集・発行 長崎県林政課
 住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
 電話：095-895-2988
 ファクシミリ：095-895-2596
 メールアドレス：
 s07090@pref.nagasaki.lg.jp

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和5年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	22,000	普通	多い	普通
	16～18	小曲り	21,400	普通	多い	普通
	20～22	直	21,700	普通	多い	普通
	20～22	小曲り	20,700	普通	多い	普通
	24～28	直・小曲り	20,000 ～18,000	少ない	普通	普通

【スギ】

令和5年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	16,000	少ない	普通	普通
	16～22	小曲り	14,000	少ない	普通	普通
	24～28	直	16,000	少ない	普通	普通
	24～28	小曲り	14,000	少ない	普通	普通

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで